

# 同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第 21 号



総会集合写真

目次	同窓会会長挨拶……………	1
	保健学教育部長挨拶……………	2
	在校生の寄稿……………	3
	同窓会総会議事録……………	6
	安田セツ子奨学助成基金運用のご報告……………	7
	特別講演……………	10
	熊本大学卒業生表彰……………	11
	ご寄附について……………	11
	寄附者芳名録……………	12
	国家試験合格状況……………	13
	令和 6 年度卒業生の進路状況等について……………	14
	保健学科教員紹介……………	15
	同窓会役員名簿……………	15

## 2026年度保健学科同窓会総会、 特別講演、懇親会のご案内

日時：2026年7月4日（土）（予定）  
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会  
<https://hoken.kuma-u.jp/>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

Web同窓会システムにメール登録されている方は、  
事前にメールでご案内します。

住所変更の方は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

# ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科 5 期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

例年、6月梅雨入り、7月中旬には梅雨明けというのが常ですが、今年は梅雨入りが5月中旬、梅雨明けも6月下旬と梅雨期間全体が前倒しとなりました。結果、真夏の到来も早まり、猛暑日が長期化し、連日、酷暑が続いて雨不足が報じられていました。ダムの水位低下や農作物の日照り被害など、雨が恋しくなった頃、8月になると連日九州各地を襲った線状降水帯は、各地に甚大な被害を与えました。熊本県内でも家屋の床上浸水も2,000棟以上、道路冠水によるJAFへの車両移動要請も2,000件以上の被害があっていました。被害を受けられた方におきましては心よりお見舞い申し上げます。自然と共に暮らす上で、雨も日光も必要ではありますが何事もほどほどにという思いです。

さて、今年も令和7年7月5日に同窓会・総会・懇親会を開催することができました。総会参加者も23名、懇親会14名の参加がありました。参加を頂いた方がたに心から感謝申し上げます。

保健学科同窓会は、平成16年（2004年）に発足し、今年で21年になります。この間、多くの皆様の支えによって、友情を深め合う大切な場として歩みを続けてまいりました。心より感謝申し上げます。その間、時代は令和へと移り、人々の考え方、常識も変わってきました。近年の社会における価値観や考え方の変化を受け、以前は許されていた言動が「ハラスメント」と捉えられるようになるなど、私たちの日常にも新たな配慮が求められる時代となっております。このような背景のもと、本年度の同窓会では、杉山友香社会保険労務士事務所特定社会保険労務士の杉山友香先生に『ハラスメントの最新知識と防止について～アンコンシャス・バイアスから考える～』を企画いたしました。「ハラスメント」という言葉は皆さんもよくご存じかと思いますが、「アンコンシャス・バイアス」という言葉はご存じでしょうか。一言で言うと、「無意識の偏見や思い込み」ということですが、これが、ハラスメントの原因にもなるということです。詳細は、後述します特別講演杉山友香先生の寄稿をご覧くださいければと思います。

また、総会ではWEB同窓会システムの導入後の報告をさせていただきました。初年度でもあり、WEB同窓会システムへの登録数が少なかったことから、今年まではWEB同窓会システムへのID、パスワードの案内を行います。システムご利用の際は、ぜひ、メールアドレスの登録をお願いします。

近年、総会、懇親会への参加者数が少なくなってきました。以前、同窓会総会の開催前には、ハガキにて案内をしていました。経費節減などからハガキ発送をやめたことによるアナウンス不足が要因と考えていますが、毎年開催しています同窓会総会についてもメールで開催案内をさせていただきます。WEB同窓会システムは単に同窓会名簿のシステム化ということではなく、皆様にメールアドレスを登録していただくことにより、大学及び同窓会からの様々な情報をリアルタイムに情報発信できるようになります。ペーパーレス時代のシステム活用へのご理解を承り、WEB同窓会システムへの登録をよろしくお願いします。

新型コロナもニュースなどで報道されることも少なくなりましたが、インフルエンザと同様、ウィルスがいなくなった訳ではありません。今もお感染者は多数おられます。

卒業生の皆さんにおかれましては、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。

## ご挨拶

大学院保健学教育部長・医学部保健学科長 大林 光念



令和5年4月より保健学教育部長・保健学科長に任ぜられ、就任3年目を迎えました。熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様におかれましては、日頃より大学へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。特に、この度のABC棟改修工事（一昨年度第一期工事、昨年度の第二期工事を終え、現在は最終の第三期工事中です。）に対する同窓会の皆様からのご寄附に対しましては、居職員ならびに在学生一同、心より感謝いたしております。全工事を終え、新校舎が完成した暁には、是非とも生まれ変わった母校の姿をご覧ください。

校舎の改修のみならず、大学院保健学教育部・医学部保健学科は、大学院大学たる熊本大学の一部局として、新たなステージに向けて着々と進化を遂げております。例えば2020年度に開設した生体情報研究センターは、クラウドファンディングという形で多くの方々のご協力を得つつ、「多分野融合型新医療創出研究」を推進する組織に変貌を遂げております。生命科学研究部保健学系の強みである「ウイルス遺伝子検査学」、「遺伝カウンセリング学」、「質量分析学」に関する研究に、所属する各教員が持つ様々な専門性を融合することで、更に進化した医学・保健学研究の拠点を構築しようとしているところです。また、本センターではもう一つ、「地域における医学・保健学『教育』の拠点」としての役割を果たすという目的も新たに掲げました。「基礎医学と臨床医学の架け橋」、「次世代研究者への架け橋」、「地域と大学との架け橋」という3つの意味を込めて、多方面に向けて発信している「架け橋授業」は、正にその象徴たる活動の一つです。加えて、2022年度に開設した大学院博士前期課程遺伝カウンセリングコースからは、すでに修了者を6名輩出しております。新時代の医学・医療を牽引する、熊本大学大学院保健学教育部出身の認定遺伝カウンセラー誕生も目前です。

このように、新たな歴史を着々と形成している熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科が益々の発展を遂げるには、大学と同窓会との「新時代を見据えた健全で対等な協力関係の構築」も不可欠です。大学に大学なりのビジョンがあるように、貴同窓会においても「あるべき後進の姿」を思い描いていただき、若手の育成に有益な支援活動を考案、継続していただければ幸いです。

充実した教員陣と最先端設備、そして先輩たる熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様の温かいご支援に囲まれ、人を愛するために学びを愛する若人たちが、人への深い思いやりと医学・医療への熱意、最先端の総合医科学的知識を併せ持つ人材に成長する場として、今後益々熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科を活用してくれることが、私ども教職員一同の最大の目標、喜びであります。このような我々の思いと歩調を合わせ、貴同窓会が益々のご発展を遂げられますことを、心より祈念いたしております。

## 在校生の寄稿

### 大学生活を振り返って

保健学科看護学専攻4年 さかもと あいり 坂本 愛鈴

2022年度に入学してからの4年間を振り返ると、本当にあっという間であり、いよいよ卒業を迎えようとしています。入学当初はまだ新型コロナウイルスの影響が残っており、講義や行事に制限がある中での学生生活のスタートでした。不安を抱えながらも、少しずつ規制が緩和され、対面授業や部活動も再開し、仲間と共に多くの経験を重ねることができ、充実した大学生活を送ることができました。

大学生活で最も印象に残っているのは領域別実習です。なかでも急性期実習では大きな学びを得ました。私が受け持たせていただいた患者さんは全盲で、手術を受けられた方でした。視覚情報を得られないため、病棟での処置やケアの一つひとつがどのように行われているのか分からない状況は、大きな不安につながります。私は、その時々状況をできるだけ言葉で伝えるように心がけ、安心して過ごしていただけるよう努めました。直接的な介助は少なかったものの、声をかけることで表情が和らぐ瞬間があり、看護の関わりが患者さんの気持ちを支える力になることを実感しました。

また、実習先の看護師の方々が、術後の患者さんに対して疼痛に寄り添いながらも早期離床を丁寧に促している姿を見て、急性期看護の重要性を深く学ぶことができました。日々変化する患者さんの状況に、自分の知識不足を痛感し、悩むこともありましたが、それでも患者さんの変化に向き合い続けたことが、自分の成長につながったと感じています。また、共に実習に臨んだ友人からの励まし、先生方や臨床指導者様の助言や温かい言葉に支えられ、看護師としての姿勢を学ぶとともに前向きに取り組むこ

とができました。こうした人とのつながりがあったからこそ、挑戦と成長を積み重ねられたのだと感じています。

今後、看護師として働いていく中では、さまざまな疾患や事情を抱える患者さんと出会うと思います。その中で、専門職としての確かな知識と技術を基盤に、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活の回復を支えられる看護師でありたいと思います。また、患者さんだけでなく、共に働くスタッフからも信頼される存在となれるよう、臨床現場での学びを大切にしながら自己研鑽を続けていきたいです。

最後に、共に学び合い励まし合った友人、日々ご指導いただいた先生方、そして大学生活を通じて出会い支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

### 大学生活を振り返って

放射線技術科学専攻4年 つむら りひと 津村 琉陽

大学生活を振り返ってみると、実りのある大学生活であったと感じます。熊本大学に入学し、大学での生活や一人暮らし、アルバイトを通じて、毎日たくさん刺激を受け、学業だけでなく人との関わり合いや社会のことなど、多くのことを学ぶことが出来ました。初めてのことも多く、時にはうまくいかないこともありましたが、その中にも新たな発見や楽しさを見出すことが出来、とても充実した生活を送ることが出来ました。

4年次の臨床実習の経験はとても大きな経験でした。ただ放射線技師になるという漠然とした目標を掲げ入学し学生生活を過ごしていた私にとって、理



想とする放射線技師像や自分の将来についても改めて考える良い機会となりました。10週にわたる臨床実習の中で毎日の実習やレポートに疲れを感じることもや、自身の知識不足を痛感することも多くありました。しかし、技師の先輩方をはじめとした多くの方々にサポートしていただき、必要な知識を深めるだけでなく、技師、病院の工夫や患者接遇、心構えも学ぶことが出来ました。患者さんに寄り添い検査・治療を行う技師の姿が多くみられ、中でも放射線治療の最終日の患者さんが深々と頭を下げ、感謝を述べていた姿が印象に残っています。放射線技師としての仕事の役割ややりがいを実感し、私も患者さんに寄り添うことのできる技師になりたいと感じました。

卒業研究では、自分の研究テーマに関する論文を多数読み、講義では扱われない専門的な知識を深めることが出来ました。毎日のように研究室に通い、朝から夜まで研究に取り組む日々は大変でしたが、同じ境遇の仲間と助け合いながら粘り強く研究に励みました。うまくいかないことも多く、行った研究が無駄になることもありましたが、担当教員や大学院生に多角的な視点で丁寧に指導いただき、無事に研究を終えることが出来ました。研究を通して、自ら課題を見つけて、考え、実行する力を養えたことは大きな成長に繋がりました。

大学生活の中で大変なことも多くありましたが、それらを自分の成長の糧として、前に進むことが出来ました。これらはひとえに、ともに切磋琢磨した学友、優しく、ときには厳しく私たちのことを指導して下さった先生方、お忙しい中でも私たちを受け入れ、多くのことを教えてくれた病院の方々のおかげです。このことを忘れず、これまで学んだ知識や技術、考え方をもとに卒業後も目の前の患者さん、および医療に貢献できるような放射線技師になるべく日々精進します。

## 大学生活を振り返って

検査技術科学専攻 4年 <sup>いまむら あんり</sup> 今村 安里

4年間の大学生活では臨床検査技師になるために必要な知識、技術を身につけるとともに人としても大きく成長できました。テスト勉強やレポート作成では時間に追われて苦しい時も多くありました。しかし、4年生になって国試勉強に取り組んだり、臨地実習に行ったりする中でこれまでに授業で学んだ内容は全て臨床の業務と結びついているのだと実感しました。

私が学生生活で特に印象に残っているのは臨地実習です。3か月弱の間、日々の業務でお忙しい中、多くの知識、技術を教えていただきました。これまで授業で学んだことが実際に臨床現場ではどのように生かされているのかが分かり、理解が深まりました。また、技師の方の高度な知識・技術や様々な症例にも臨機応変に対応している姿がとてもかっこよく、より一層臨床検査技師という職業への憧れが強まりました。

臨地実習中に技師の方から、日々の業務に取り組む中で常に何かしらの疑問を持つこと、検体を家族など自分の大切な人のものだと思って扱うことを大切にしていると教えていただきました。病理検査や細菌検査などの検体検査では患者さんと直接会うことが少なく、患者さんの検体のみを扱うのでどうしても機械的な作業になってしまいやすいと思います。検査技師のキャリアを積んでいく中でも臨床検査技師として働くうえで大切なことを意識しながら検査することが大切な基盤になるのだと学びました。また、日々の業務で何かしらの疑問を持ち、それを解明する姿勢を持ち続けることは常に知識と技術を向上していくことにつながり、重要なことだと分かりました。

私は卒業後、大学院に進学します。これまでの4年間は授業を通して多くの知識を学びましたが、こ

れからは自分が関心を持つテーマについて自ら研究を行い、解明することを目標に掲げています。また、研究に取り組む中で問題解明への導き方や研究手技も学びたいと考えています。そして将来、臨床現場で働くからこそ生まれる疑問の解明につなげていきたいです。

最後に、4年間ご指導いただいた先生方、お忙しい中臨地実習という貴重な機会を与えてくださった臨床検査技師の方々に深く感謝申し上げます。大学生活での学びを活かしながら、臨床現場に貢献できる検査技師になれるようにこれからも精進していきたいです。

## 大学院における研究活動の支え

保健学教育部

博士後期課程3年 かわもと のりこ 川本 紀子

私は1999（平成11）年に熊本大学教育学部（特看）を卒業し、看護師として勤務後、高校教諭として看護基礎教育に携わりました。長年課題として抱えていた看護学生の実習評価の在り方を探求したいと考え、地元大学の修士課程に進学しました。研究を通して、学生と教員が相互に学び合う契機として評価を捉え直すことができ、教育観を再構築できました。研究過程で感じた面白さや成果を得た達成感は、次の一步を踏み出す力となり、本学の博士後期課程に進学しました。

進学のために教員を退職し、非常勤看護師として週4～5日程勤めながら、研究活動をしております。この4年間の研究活動において研究をしなかった日は数日程度ありましたが、それ以外は常に研究活動に没頭する日々です。博士後期課程の講義では、諸先生方の専門的知見に触れるとともに、課題発表を重ねることでプレゼンテーション力を培い、自己の成長を実感する機会が多くありました。一方で、研

究過程では理解の及ばない事柄が次々と現れ、学びを深めるほど新たな疑問が生じ、混乱が増す経験が続きました。研究過程は、先が見通せない不慣れな道を手探りで歩むような戸惑いや辛さも伴いましたが、同分野の先生方は親身になって相談に応じてくださいました。何より、指導教員である松本智晴先生のあたたかいご助言と励まし、的確なご指導により、多くの困難を乗り越えることができました。自分の限界を感じた時、松本先生は常に支えとなって背中を押してくださいました。また、同じ境遇にあるゼミ仲間との意見交換を通じて、相互的な学びの大切さを実感し、研究が孤独な営みではないことも感じていました。普段はオンラインでしか会えないゼミ生と学会や研究室で直接会えたときの喜びと安堵感は、研究生活における心の支えでもありました。博士後期課程のゼミでは、これまでにない価値観や発想を得て視野が広がり、事象を批判的に捉え直す思考や、学会発表・論文執筆を通じて成果を発信する勇気を養うことができました。

現在、私は看護学生や新人看護師が専門職として現場に適応し、個人が望むキャリアを継続するための原動力を明らかにする研究を進めています。看護を志す学生が、困難を乗り越えて、主体的に成長できる力を育むための看護教育の在り方を探究したいと考えています。自立した教育者・研究者として医療・教育現場に貢献できるよう、微力ながら尽力していきたいと思います。

## 第20回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 令和7年7月5日（土）

14：30～17：00

場 所 熊本大学医学部保健学科E棟5階

E506講義室

出席者数 23名

議 長 福島敏和氏（熊本地域医療センター）

### ＜総会式次第＞

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学科長・保健学教育部長挨拶

議長選出

議事

#### 1. 令和6年度事業及び会計に関する報告

①事業報告

②決算報告

③監査報告

#### 2. 令和7年度役員について

#### 3. 令和7年度事業計画（案）

#### 4. 令和7年度予算（案）

#### 5. その他審議事項

閉会の辞

### 【議事要旨】

14時30分、事務局担当の矢野幹事より開会が告げられ、第20回同窓会総会が開会された。最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて熊本大学大学院保健学教育部長の大林光念先生のご挨拶が行われた。その後、福島敏和氏（熊本地域医療センター）が総会議長に選出され、議事に従い5項目の議案の審議が行われた。

#### 1. 令和6年度事業及び会計に関する報告

春田会長より、令和6年度の事業報告として、第

19回同窓会総会の開催、同窓会会報第20号発行、卒業生表彰等、1年間の事業、同窓会名簿管理システムの稼働状況が報告された。松本理事より令和6年度の会計について決算状況が報告された。その後、北里・肥合監事より令和7年3月28日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後令和6年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

#### 2. 令和7年度役員について

現役員の紹介と継続について承認を得られた。

#### 3. 令和7年度事業計画（案）

春田会長より、令和7年度事業計画（案）について説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で令和7年度事業報告（案）は承認された。

#### 4. 令和7年度予算（案）

友岡会計幹事より、令和7年度予算（案）について説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で令和7年度会計予算（案）は承認された。

#### 5. その他審議事項

増永理事より、安田セツ子基金の会計報告を総会で実施すべきとの意見があった。

これに対し、松本理事より、次年度より報告する方向で検討する旨の回答があった。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。最後に、事務局担当の矢野幹事より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、15時30分に終了した。

次に特別講演において、杉山友香社会保険労務士事務所特定社会保険労務士 杉山友香先生から、「ハラスメントの最新知識と防止について～アンコンシャス・バイアスから考える～」と題した講演が行われた。

令和7年7月5日  
議事録署名人 矢野 浩夢



## ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 安田セツ子奨学助成基金運用のご報告 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

本基金は「経済的に困っている学生さんの支援に使ってほしい」という安田セツ子様のご厚意を賜り設立されたものです。設立の経緯については熊本大学医学部保健学科同窓会ホームページより同窓会会報第14号でご覧いただけます。

令和7年度は、同窓会役員で審議した結果、2名の学生さんに1人あたり25万円を助成させていただきました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族様へ厚く御礼を申し上げますとともに、同窓会では今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。



## 令和6年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 決算

## 収入

勘定科目	予算額	収入額	備考
1.前年度からの繰越金	6,350,978	6,350,978	
2.保健学科入学生会費	1,100,000	1,230,000	(令和6年3月1日～令和7年2月28日入金分) 令和6年度納入者総数 123名 令和6年度入学生 107名 (看護50名、放射28名、検査29名) 卒業生 2名 令和7年度新入生 14名
3.その他	0	190,363	
寄附金		189,680	(令和6年3月1日～令和7年2月28日入金分) 57名 払込手数料3,420円＋送金料660円を差し引いて左記の金額
利子		683	
合計	7,450,978	7,771,341	

## 支出

勘定科目	予算額	執行額	備考
大科目	中科目		
1.在校生教育支援費	2,100,000	2,099,696	
オープンキャンパス補助費	100,000	99,696	ジュース代
熊本大学基金へ寄附	2,000,000	2,000,000	保健学科講義棟改修工事のため
2.同窓会総会運営費	155,000	84,912	
総会費	120,000	69,912	会場使用料(保健学科E棟506および第一会議室) 懇親会飲食補助(学生参加者、講師、他)
特別講演 講師謝金	0	0	R6年度:特別講演は実施せず
特別講演 交通費	0	0	
特別企画 講師謝金	15,000	15,000	5,000円×3名
特別企画 講師交通費	10,000	0	熊本市外からご参加の場合(R6年度:執行なし)
広報費	10,000	0	チラシデザイン費、案内郵送費等
3.同窓会会報作成費 名簿管理システム導入費	2,000,000	1,384,067	R6年度:名簿管理システムを導入し会報をWebに掲載 (名簿管理システム導入初期費用、IDパスワード通知案内費用、会報編集委託費用、振込手数料)
4.ホームページ維持管理費	59,500	39,700	振込手数料込み
5.熊本大学同窓会連合会会費	0	0	R6年度より廃止
6.表彰費	11,000	12,320	卒業生表彰記念品(令和6年度:1名)、振込手数料込み
8.旅費	130,000	93,080	役員会議時雑費(1000円/回×参加者数) 令和6年度関西連合同窓会へ会務として出席
9.事務経費	20,000	1,220	役員会会場使用料(振込手数料込み) 事務用品、通信費、会議費、各項目に含まれていない振込み手数料等
10.予備費	100,000	2,551	Webシステム導入について理学部同窓会へ相談時の手土産
支出小計	4,575,500	3,717,546	
11.次年度繰越金	2,875,478	4,053,795	
合計	7,450,978	7,771,341	

【収入】 7,771,341円 — 【支出】 3,717,546円 = 【差引残高(次年度繰越額)】 4,053,795円

令和6年度熊本大学医学部保健学科同窓会の会計監査を 令和 7 年 3 月 28 日に実施し、  
出納簿、領収書等関係書類と照合した結果、関係書類の整備も良好であり、科目別支出および預金通帳についても  
異常を認めず適正であったことを、ここに報告します。

令和7年 3月28日

監事

北里真弓

令和7年 3月28日

監事

肥合原弘

## 令和7年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 予算案

## 収入

勘定科目	本年度予算額	前年度収入額	増減額	備考
1.前年度からの繰越金	4,053,795	6,350,978	-2,297,183	
2.保健学科入学生会費	1,100,000	1,230,000		昨年度納入者数123名 (うち、令和6年度入学生107名、卒業生2名、令和7年度新入生14名)  本年度も左記を見込み計上
3.その他	0	190,363		
寄付金		189,680		(令和6年3月1日～令和7年2月28日入金分) 57名
利子		683		
合計	5,153,795	7,771,341	-2,617,546	

## 支出

勘定科目		本年度予算額	前年度執行額	増減額	備考
大科目	中科目				
1.在校生教育支援費		1,100,000	2,099,696	-999,696	参加者へのジュース代、郵送費込み 保健学科講義棟改修工事のため
	オープンキャンパス補助費	100,000	99,696		
	熊本大学基金へ寄附	1,000,000	2,000,000		
2.同窓会総会運営費		175,000	84,912	90,088	会場使用料、印刷費等 懇親会飲食補助(学生参加者、講師、他) R6年度:特別講演は実施せず  R6年度:5000円×3名 R7年度:特別企画は実施せず 熊本市外からご参加の場合
	総会、懇親会補助費	120,000	69,912		
	特別講演 講師謝金	50,000	0		
	特別講演 講師交通費	5,000	0		
	特別企画 講師謝金	0	15,000		
	特別企画 講師交通費	0	0		
3.同窓会会報作成費		160,000	833,650	-673,650	R6年度より会報PDFをWebにて掲載 寄附金・会費納入用紙を郵送 令和7年度は会報PDFを編集、Webにて掲載のみ
	Web掲載編集費用	160,000			
4. 名簿管理システム費		500,000	550,417		R6年度:名簿管理システム導入初期費用、IDパスワード通知案内費用 R7年度:年間維持サポート料33,000円/月 (R6年度1～3月分も今年度支払い)
5.ホームページ維持管理費		39,700	39,700	-	
6.表彰費		12,320	12,320	-	卒業生表彰記念品(令和5年度:1名)
7.旅費		70,000	93,080	-23,080	役員会議費(1000円/回×参加者数)
8.事務経費		50,000	1,220	48,780	新入生への同窓会会費納入案内郵送費、役員会 会場使用料、事務用品、通信費、各項目に含まれ ない振込み手数料等,
9.予備費		700,000	2,551	97,449	
	その他	100,000			会費の重複納入者への払い戻し、郵送費等 その他必要な支出があった場合
	WebシステムID、パスワード 再通知費用	600,000			
合計		2,807,020			
10.次年度繰越金		2,346,775	4,053,795	-1,707,020	

## 特別講演

## ハラスメントの最新知識と防止について ～アンコンシャス・バイアスから考える～

特定社会保険労務士 杉山 友香

近年、職場や学校、社会全体でハラスメント問題への関心が高まる中、ハラスメントに関する研修は、問題解決への重要な一歩として注目されています。私は社会保険労務士として企業顧問を務めるほか、各種研修講師としても登壇していますが、2020年に労働施策総合推進法（いわゆるパワハラ防止法）が改正・施行されたことによりハラスメント防止研修の依頼が一気に増えました。これまでの研修では主にセクハラやパワハラの定義や事例紹介、事業主のハラスメント防止措置義務に焦点を当てることが多かったのですが、最近ではジェンダー、性的指向、障害、文化的背景など、さまざまな多様性を尊重し、あらゆる人々が快適に過ごせる職場を作るための取り組みが強調されるようになり、今回の講演では、「ハラスメントの最新知識と防止について～アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見や思い込み）から考える～」というテーマで、事例に基づいたセッションやミニワークを取り入れながらお話しさせていただきました。

### 【アンコンシャス・バイアスとは】

「無意識下ではたらく意見の偏り」、「無意識の偏見」であり、その人の過去の経験や育った環境、友人や親、兄弟から受けた影響などが根拠になっており、それは何気ない言動として現れるものです。

たとえば、「若いからまだ責任のある仕事は無理だろう」「女性だから細やかな気配りができるはず」「子育て中だから残業は頼めない」といった発言。どれも悪気はなくとも、受け手にとってはプレッシャーや疎外感につながり、結果としてハラスメントと受け取られる可能性があります。講演前半ではパワハラや性に関する各種ハラスメントの定義や事例につ

いて考えてもらい、後半でアンコンシャス・バイアスとは何かを理解してもらった上で、職場、家庭、地域社会、その他（性別、年齢、経歴等）の身の周りにおけるアンコンシャス・バイアス例をかき出し、グループワークを通して他者との価値観の違いや情報共有をしていただきました。

### 【アンコンシャス・バイアスに気づくこと、意識することが大切】

多くの場合、ハラスメント行為者は、本人が無自覚のため、よほど意識しておかないと気づくことはできません。言い換えれば、自分が抱えているアンコンシャス・バイアスを認識し対処しなければ、コミュニケーション不全を起こし、ときにはチームや組織の崩壊をまねくことにもつながります。アンコンシャス・バイアスを自分で気づくのは難しいので、ハラスメント研修等をきっかけに無意識の思い込みに気づき、客観的に認識することが大切です。アンコンシャス・バイアスに気づけると、これまで常識と思っていたことに対して疑問を持つことができます。疑問を持てれば、自分の発言・行動にも注意ができるということになります。ハラスメント防止の鍵は、「やってはいけないこと」だけを覚えるのではなく、「相手との違いを尊重し、対話を大切にする姿勢」を育てることにあります。そしてその第一歩が、自分自身のアンコンシャス・バイアスに気づくことなのです。

最後に、閉じられた人間関係の中で、気付かない内に「ハラスメント」は発生しています。これらのハラスメントは「人権侵害」であり、本人同士や周りの人間を含め解決していく必要がある重大な問題です。最も大切なことは、自分の行動が同じ環境にいる人間に不快感を与えていないかどうか、ということを手振り返ることが大切です。自分の何気ない言動が相手にとっての「ハラスメント」になっていないか、今一度自分の普段の行動を見つめ直してみてください。

今回の講演が、誰もが安心して働ける職場づくりへの一助となることを願っています。





## 熊本大学卒業生表彰

令和7年度熊本大学卒業生表彰の表彰式が11月3日に熊本大学ホームカミングデーにて開催されました。熊本大学の発展または社会からの理解促進に繋がる多大な貢献のあった卒業生に対し、その功績を学長よりたたえられます。

本年は保健学科から次富 久之様（S47.3 医学部附属衛生検査技師学校卒業）が表彰されました。

昭和48年12月の川崎医科大学付属病院、昭和56年10月の佐賀医科大学付属病院の開院に向けて病理検査室の作業手順、運営の立案を行い、開院後の円滑な業務運営に寄与されました。また、細胞診業務従事者養成に係る実務指導や医学部生の教育、地域活動、学術活動の功績は顕著であり、また、学会においては、感謝状、功労賞、貢献賞等数々の賞も受賞されております。

おめでとうございます。



## ご寄附について

保健学科同窓会会長 春田 昭一

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より保健学科同窓会へのご支援とご協力いただき誠にありがとうございます。

保健学科同窓会は、①橋渡しの場の提供（卒業生と保健学科、卒業生と在校生、各施設・病院と保健学科等の橋渡し、②在校生への支援、③同窓生間の情報交換の場の提供を目的に、皆様のお力を借りて運営しております。

具体的には同窓会総会、学生支援、ホームカミングデー支援、会報発行などを行なっておりますが、これら同窓会の運営は、新入会時の永年会費と皆様からのご寄附が財政基盤となっています。この紙面をお借りして、ご寄附された会員、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。同窓会として毎年の卒業生による会員増加は嬉しいことなのですが、財政的には厳しい面もあり、今後とも寄附に頼らなければ

なりません。この寄附の方法は、昨年までは、同窓会会報発送時に払込用紙を同封しておりましたが、今年から会報の郵送を廃止、WEB上での閲覧としたことにより払込用紙の郵送もできなくなっております。代わりのご寄附の手段としては保健学科同窓会ホームページからクレジットカードにて決済することができるようになりました。これにより、郵便局、コンビニなどへ出向くことなくご寄附いただけるようになります。クレジットによるご寄附の方法について詳細は保健学科同窓会ホームページに説明しております。

どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。

また、近年の国立大学の運営も大変厳しくなっているようです。皆様には同窓会への寄附をお願いしているところではありますが、別途「熊本大学基金 (<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>)」を通じて保健学科へのご寄附もどうぞよろしくお願い致します。



## 熊本大学医学部保健学科同窓会寄附者芳名録

熊本大学医学部保健学科同窓会へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

今会報では、令和6年9月1日から令和7年10月10日までの間にご入金を確認させていただきました同窓会会員の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。敬称は略させていただきます。

### 附属看護

尾上泰子	(昭和12)
生田セキヨ	(昭和18)
坂井洋子	(昭和31)
青山輝代子	(昭和35)
福永照子	(昭和35)
西村博美	(昭和36)
北原美津子	(昭和36)
小島紀子	(昭和37)
森山京子	(昭和37)
尾山タカ子	(昭和38)
高村靖子	(昭和39)
八木和子	(昭和39)
瀬脇良子	(昭和40)
鈴田久美子	(昭和43)
三池真佐美	(昭和44)
吉村久美	(昭和45)
山本裕子	(昭和46)
永野香代子	(昭和47)
多田隈孝子	(昭和48)
八代鈴代	(昭和48)
井上知佳代	(昭和49)
山部文代	(昭和49)
泉るり子	(昭和50)
大曲昭子	(昭和50)
山之内香代子	(昭和51)
後藤桂子	(昭和52)
平恵美	(昭和53)
片山純子	(昭和54)
坂井光香	(昭和54)

### 短大・看護

本田敦美	(昭和55)
川崎貴代美	(昭和55)
西照代	(昭和55)
中西悦子	(昭和56)
大畑緑	(昭和56)
奥村智子	(昭和56)
生田悦子	(昭和56)
森蘭ふく代	(昭和56)
米本浩子	(昭和56)

鶴田真弓	(昭和56)
粒田美津子	(昭和58)
竹光まこ	(昭和59)
塚田祥子	(昭和59)
本村聖子	(昭和59)
満園菜保子	(昭和61)
村上奈津子	(昭和63)
木庭礼子	(昭和63)
原田美香	(平成元)
平川恵子	(平成元)
田中昌子	(平成2)
岩本敏恵	(平成3)
秋山春美	(平成4)
島津貴子	(平成8)
森崎恵子	(平成8)
内野舞	(平成8)
井村昭寛	(平成9)
溝口貴子	(平成10)
北島ちひろ	(平成12)
今村聡子	(平成17)

### 保学・看護

田中由紀	(平成25)
瀬口瑞彩	(令和4)

### 専攻科助産

福田詩子	(平成2)
尾田ゆり	(平成8)

### X線

堤國美	(昭和42)
洞田貫誠志	(昭和42)
天野一弘	(昭和44)

### 附属放射

家永正幸	(昭和45)
植川利之	(昭和46)
松村康弘	(昭和48)
舞博幸	(昭和50)
中野美代子	(昭和52)
西本博美	(昭和52)
宮川照生	(昭和52)
山口英雄	(昭和55)

### 短大・放射

野口輝也	(昭和57)
有迫哲朗	(昭和60)
安藤真次	(昭和60)
羽手村昌宏	(昭和62)
大和勇三	(昭和62)
谷崎雄樹	(平成2)
倉重健一	(平成4)
高瀬千鶴子	(平成5)
大津嘉秀	(平成6)
福田勝治	(平成9)
中島佳子	(平成12)
佐藤真衣子	(平成17)

### 附属衛生

武藤勝	(昭和41)
坂井和子	(昭和43)
杉内博幸	(昭和45)
近藤明子	(昭和46)
園田文孝	(昭和48)

### 臨床検査

河野昌俊	(昭和50)
堀田加奈子	(昭和50)
森信子	(昭和50)
中潟順子	(昭和51)
錦戸洋子	(昭和53)
増永純夫	(昭和54)

### 短大・衛生

山本克代	(昭和55)
甲斐智子	(昭和58)
保元富子	(昭和58)
白井邦明	(昭和59)
春田昭一	(昭和59)
西森みどり	(昭和62)
吉田妙	(平成3)
伊藤弥子	(平成4)
廣田啓子	(平成6)
岐部貴美子	(平成7)
村上博美	(平成9)
本村裕実子	(平成11)

小 野 知 子 (平成17)	橋 本 みさこ (昭和52)	野 濱 さやか (平成10)
<b>保学・検査</b>	高 山 睦 子 (昭和54)	鈴 木 美 咲 (平成12)
西 依 亜 紀 (平成23)	福 永 淳 子 (昭和55)	上 坂 智 子 (平成13)
大 山 幸 永 (令和2)	鬼 塚 桂 子 (昭和56)	小佐井 梨 香 (平成16)
橋 本 華奈子 (令和4)	廣 畑 智 子 (昭和59)	嶋 田 里 佳 (平成17)
久 鍋 奈 海 (令和6)	森 本 正 子 (昭和59)	
<b>特別看護</b>	佐 藤 穂 波 (昭和62)	
東 サトエ (昭和49)	那 倉 佳 子 (昭和63)	
大 神 眞理子 (昭和51)	平 井 和 恵 (平成2)	
	坂 崎 香 織 (平成3)	
	山 口 由 美 (平成4)	



## 国家試験合格状況

令和7年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合 格 率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) (うち新卒者)
看 護 師	R4	75	75	100.0	64,051	58,152	90.8 (95.5)
	R5	62	62	100.0	63,301	55,557	87.8 (93.2)
	R6	75	75	100.0	63,131	56,906	90.1 (95.9)
保 健 師	R4	16	16	100.0	8,085	7,579	93.7 (96.8)
	R5	20	20	100.0	7,795	7,456	95.7 (97.7)
	R6	20	20	100.0	7,658	7,196	94.0 (96.4)
助 産 師	R4	10	10	100.0	2,067	1,977	95.6 (95.9)
	R5	10	10	100.0	2,151	2,125	98.8 (99.3)
	R6	10	10	100.0	2,050	2,027	98.9 (99.3)
診療放射線技師	R4	39	39	100.0	3,224	2,805	87.0 (94.1)
	R5	33	32	96.9	3,565	2,834	79.5 (86.3)
	R6	33	32	96.9	3,729	3,159	84.7 (92.2)
臨床検査技師	R4	33	33	100.0	5,002	3,880	77.6 (89.5)
	R5	36	34	94.4	4,946	3,800	76.8 (88.0)
	R6	33	33	100.0	5,131	4,340	84.6 (94.0)

# 令和6年度卒業生の進路状況等について

R7.5月末現在

看護学専攻（卒業生75名）		
（就職）	所在地	人数
熊本大学病院	熊本県	25
済生会熊本病院	熊本県	1
福田病院	熊本県	2
熊本市民病院	熊本県	1
SBC メディカルグループ	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	1
熊本市役所	熊本県	8
玉東町役場	熊本県	1
人吉市役所	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	10
国立病院機構九州医療センター	福岡県	3
小倉記念病院	福岡県	1
白十字リハビリテーション病院	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	2
福岡県庁	福岡県	1
福岡市役所	福岡県	1
北九州市役所	福岡県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
鹿児島県庁	鹿児島県	1
川崎市役所	神奈川県	1
東京医科大学病院	東京都	1
陽和病院	東京都	1
東京医科大学八王子医療センター	東京都	1
EP 総合	東京都	1
日本大学病院	東京都	1
調布市役所	東京都	1
就職小計		70
（進学）	所在地	人数
（本学大学院）保健学教育部	熊本県	1
熊本保健科学大学助産別科	熊本県	2
九州看護福祉大学助産学専攻科	熊本県	1
東京アカデミー熊本校	熊本県	1
進学小計		5

放射線技術科学専攻（卒業生33名）		
（就職）	所在地	人数
済生会熊本病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	3
くまもと森都総合病院	熊本県	1
熊本機能病院	熊本県	1
熊本整形外科病院	熊本県	2
潤心会熊本セントラル病院	熊本県	1
大津中村整形外科	熊本県	1
いとり歯科こども歯科クリニック	熊本県	1
高邦会	福岡県	7
小倉記念病院	福岡県	1
福岡青洲会病院	福岡県	1
佐賀大学医学部附属病院	佐賀県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
長崎大学病院	長崎県	1
中部徳洲会病院	沖縄県	1
浦添総合病院	沖縄県	1
広島大学病院	広島県	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
敬節会	大阪府	1
キャノンメディカルシステムズ	神奈川県	1
東京都予防医学協会	東京都	1
就職小計		30
（進学）	所在地	人数
（本学大学院）保健学教育部	熊本県	3
進学小計		3

検査技術科学専攻（卒業生33名）		
（就職）	所在地	人数
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本市医師会検査センター	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	1
嶋田病院	熊本県	1
LSI メディエンス	熊本県	1
長崎大学病院	長崎県	1
佐世保中央病院	長崎県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
慈愛会今村総合病院	鹿児島県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	2
野尻中央病院	宮崎県	1
佐賀県医療センター好生館	佐賀県	1
大分市医師会立 アルメイダ病院	大分県	1
高邦会	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	3
福岡青洲会病院	福岡県	1
福岡赤十字病院	福岡県	1
岡部病院	福岡県	1
県立広島病院	広島県	1
シスメックス	兵庫県	1
済生会横浜市東部病院	神奈川県	1
未定（進路検討）		1
就職小計		27
（進学）	所在地	人数
（本学大学院）保健学教育部	熊本県	5
（本学大学院）医学教育部	熊本県	1
進学小計		6

## 保健学科教員紹介

### ◆看護学専攻

#### 【基盤看護学】

准教授：松本 智晴

准教授：原 健太郎

助 教：友岡 史沙 山本麻起子

#### 【地域包括ケア開発看護学】

教 授：青石 恵子

准教授：中村 五月

講 師：金森 弓枝

#### 【臨床看護学】

教 授：國府 浩子

准教授：柊中智恵子

講 師：城下 由衣

助 教：福重 真美

#### 【実践開発看護学】

教 授：三宮 里香

准教授：福山 美季

助 教：橋野 明香

#### 【母性看護学・助産学】

教 授：跡上 富美

助 教：島田久仁子 吉田 佳代

#### 【リプロダクティブヘルス学】

教 授：田代 浩徳

#### 【地域・公衆衛生看護学】

教 授：大河内彩子

助 教：石川 真子 谷川 千春

#### 【健康増進学】

教 授：河野 宏明

講 師：那須 信

#### 【大学病院からの派遣教員】

臨床講師：前田 梨沙

### ◆放射線技術科学専攻

#### 【医用画像検査学】

教 授：藤原 康博

講 師：山下 康輔

#### 【医用画像解析学】

教 授：船間 芳憲

准教授：椎葉 拓郎

助 教：中戸 研吾

#### 【放射線治療技術学】

教 授：村上 龍次

#### 【画像診断技術学】

教 授：北島 美香

准教授：米田 哲也

助 教：辻田 直子

#### 【医用放射線科学I】

教 授：金澤 裕樹

准教授：大野 剛

### ◆検査技術科学専攻

#### 【生理機能検査学】

教 授：大林 光念

講 師：伊藤 雅浩

#### 【環境衛生解析学】

教 授：大森 久光

#### 【生体分子制御解析学】

教 授：大坪 和明

助 教：橋本 弘司

#### 【臨床分析科学】

教 授：田崎 雅義

助 教：森 信子

#### 【血液免疫病態解析学】

教 授：伊藤 隆史

助 教：梶原隆太郎

#### 【微生物検査学】

教 授：津々木博康

助 教：芳之内達也

#### 【腫瘍病理解析学】

教 授：山本 雅大

助 教：矢野 浩夢

## 令和7年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員名簿

会 長：春田 昭一（済生会熊本病院）

副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）

溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）

理 事：

（看護） 田邊菜穂子（熊本大学病院 看護部）

片平 起句（社会医療法人愛育会 福田病院）

松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）

（放射） 有村 大喜（済生会熊本病院）

下之坊俊明（熊本大学病院）

（検査） 増永 純夫（元熊本中央病院）

浦本 千尋（熊本地域医療センター臨床検査科）

幹 事：

（看護） 山本麻起子（熊本大学医学部保健学科）

（放射） 辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）

川俣 祐貴（熊本大学病院）

（検査） 田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）

高島 裕子（元熊本大学病院）

荻 泰裕（熊本市医師会検査センター）

矢野 浩夢（熊本大学医学部保健学科）

会 計：友岡 史沙（熊本大学医学部保健学科）

吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）

監 事：北里 真弓（元熊本保健科学大学看護学科）

肥合 康弘（帝京大学福岡医療技術学部）